

楽壇生活40周年

堀米ゆず子

無伴奏ヴァイオリン・リサイタル

バッハとともに



J.S.バッハ:

無伴奏ヴァイオリンのための
ソナタとパルティータより

Johann Sebastian Bach: From 6 Sonatas and Partitas for solo violin

ソナタ 第1番 短調

Sonata No. 1 in G minor BWV1001

パルティータ 第1番 短調

Partita No. 1 in B minor BWV1002

ソナタ 第2番 短調

Sonata No. 2 in A minor BWV1003

パルティータ 第2番 短調

Partita No. 2 in D minor BWV1004

2020 **11/7** (土) 2:00PM開演(1:00PM開場)

A 3,000円 B 1,000円(全席指定/税込)

兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22 阪急西宮北口駅南改札口スグ/JR西宮駅より徒歩15分(阪急バス7分)

ご予約お問合せ 芸術文化センターチケットオフィス **0798-68-0255** (10:00AM-5:00PM 月曜休み ※祝日の場合翌日) ※未就学児童はご入場いただけません。

発売日	チケット 取扱	●芸術文化センター 0798-68-0255 http://www.gcenter-hyogo.jp 芸術文化センター2階総合カウンター【9/11(金)より、残席がある場合のみ】 ●チケットぴあ http://pia.jp/t/ ●ローソンチケット http://l-tike.com ●イープラス http://eplus.jp
9/10		

<チケットご購入のお客様へお願い> 新型コロナウイルス感染予防対策にご協力をお願いします。

※芸術文化センターでの販売は、来場者情報把握のため、先行予約会員に登録いただける方に限定させていただきます。チケットのご購入はお一人様2枚までとさせていただきます。※入場者数を制限して販売いたします。※プレイガイドでの販売はインターネットのみとさせていただきます。取扱いについては各プレイガイドにお問合せください。※37.5℃以上の発熱がある方は入場をお断りさせていただきます。※マスクを着用されない方はご入場いただけません。※感染の再拡大等により、公演の中止や、公演内容、座席配置等が変更となる場合がございます。 主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

ご来場前にウェブサイト掲載の(当センターをご利用のお客様へ)をご確認いただきますようお願いいたします



堀米ゆず子オール・バッハ、無伴奏演奏会

堀米ゆず子。

国際的に活躍するヴァイオリニストは、1980年、世界で最も難関と言われるコンクールのひとつ、「エリーザベト国際コンクール」に於いて日本人として初めて第一位優勝に輝く。以降、めざましい演奏活動を続け、2020年はコンクールの優勝から数えて40周年の節目の年。

兵庫県立芸術文化センターでは、3年をかけて、バッハとブラームスのシリーズを開催したが、今回、周年を記念し、自身の集大成ともいえるべき、J.S.バッハの無伴奏ヴァイオリン曲、ソナタとパルティータに挑む。バッハは私の背骨、音楽の核、と堀米ゆず子は語っていた。

ヴァイオリニストにとって、2千席のホールの舞台にたった一人立ち、4階席に至る劇場空間を、低音から高音まで響かせるのは、相当のエネルギーを要する。しかし、これまで堀米ゆず子は、その時々で、圧巻の演奏を聴かせてくれた。

確かな技、豊かな音楽性、いつでも、いつ聴いても、心から満足出来る、ベテランの芸術を堪能したい。



2015年兵庫県立芸術文化センター
「バッハ&ブラームスプロジェクトより」

バッハソロリサイタルに寄せて

早いものでエリーザベトコンクールに優勝して一夜にして生活が変わった1980年から40年経ちました!

これを書いている今2月末はまさにコンクールの仕込みをして江藤先生に怒られていた頃です。何しろ13曲と曲が多く多彩な色合いです。ひとつずつこなして行っているつもりでもあちらもこちらも中途半端になり「いったいどこからそんな汚い音を拾ってきたのですか?」と例の平穏な顔つきで言われて真っ青になりました。

兎に角ひとつずつ、すべて練習できず次の機会は1週間後かもしれないと丁寧に細部まで仕込む。あと一歩うまくなるために仕込む、そのプロセスを覚えておく。あとはそれを出すだけ!

そんな練習方法を編み出したのもこの時でした。海外留学組が多いく中でのコンプレックスも想像力を使って補う。私が全力尽くす、それだけじゃない、と思ったからです。

またピアノ伴奏をして教えてくださった江藤先生の音楽、ヴァイオリンのメロディーの聴き方を、実際自分で録音したヴァイオリンに自らピアノに座って伴奏してみると一目瞭然!こういう事だったのか、と5年間お習っていた最後にわかったのもこの時でした。こうやって仕込んだブラームスの雨の歌、一番のソナタ、モーツァルトのロンド、サン＝サーンスのハバネラ、バルトークのラプソディー……もちろんシベリウスのコンチェルトにイザイのソロ2番、ブルッフの2番のコンチェルト。

そしてバッハ

学生時代からアナリーゼが好きだった私は3番のフーガに染まりました。書き起こしたこともあります。

これだけは自分で発見したかな?あまりに他のものが多すぎて手が回らなかった事もありブリュッセルに来てからも試行錯誤を重ねて臨んだ第一次予選。最初の音から「良く息を吸ってゆっくりと弓を下す」と妹に言われた事を思い出し……あとはパート毎に仕込んで行ったフーガをひとつ

ずつ引き出しを開けていくかのように開いていく…追っていく…最後まであきらめない…

他にもパガニーニのキャプリス2つをブルッフのコンチェルトを弾き終え楽屋に戻る途中で審査員たちに出くわしてしまいました!

その中にはヘンリック・シェリング氏もいらっやいました。帽子を取ってお辞儀してくれるような恰好をなさりました。そばにいた友人がびっくりして「シャボーだって!!」まだびんと来ていない私に「脱帽しました」の意味だよ、と日本語で。

その後40年間弾き続けています。レパートリーは広がり今では全ての6曲のソナタ、パルティータを弾きます。

今回はその中から4曲選びました。

BWV1001 g-mollのプレリュードから始まる荘厳、哀しみ、そして自由なAdagio, 3つあるフーガの中で一番まとまっているフーガ、そして美しいシンリアーノにプレスト。

BWV1002 h-mollの哀しみをフランス風舞曲によって紡ぎだす至高の名作です。

BWV1003 a-mollのGrave, Fuga, 半音階の対旋律が鍵です。アルトな声で歌い上げるアリア、アンダンテ・歩くように。アレグロアッサイはイタリアの教会に鳴り響くオルガンのよう。

BWB1004 d-mollのパルティータ、4曲が素晴らしいのにそれはすべて終曲シャコンナへの序奏、あるいは一度完結した後大きなドラマが待っている……人生山あり谷ありですがまさにその心のひだを描き出す変奏曲をどうぞお聞きください。

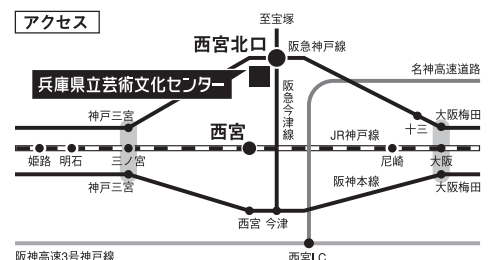
40年の集大成であり、かつ今日の一步でもあります。

KOBELCO大ホールで皆さまとの一期一会、音の出会いを今から心待ちにしております。

2020年2月末ブリュッセルにて 堀米ゆず子

堀米ゆず子 [ヴァイオリン] Yuzuko Horigome, violin

5歳からヴァイオリンを久保田良作氏のもとで始め、1975年より江藤俊哉氏に師事。1980年桐朋学園大学卒業。同年エリーザベト王妃国際音楽コンクールで日本人初の優勝を飾る。以来ベルリン・フィル、ロンドン響、シカゴ響、クラウディオ・アバド、小澤征爾、サイモン・ラトルなど世界一流のオーケストラ、指揮者との共演を重ねている。世界中の音楽祭にも数多く招かれ、室内楽ではルドルフ・ゼルキン、アルゲリッチ、クレームル、マイスキーなど数多くのアーティストと共演。また、2011年東日本大震災に対し、微力ながら手助けになる事を願って、毎年ブリュッセルに於いて「復興コンサート」を行なっている。2016年5月より仙台国際音楽コンクールヴァイオリン部門審査員長。現在、ブリュッセル王立音楽院教授、マーストリヒト音楽院教授。使用楽器は、ヨゼフ・ヴァルネリ・デル・ジェス(1741年製)。 公式ホームページ: <https://yuzukohorigome.com/>



アクセス

● 阪急 西宮北口駅 南改札口 スグ(連絡デッキで直結)

● JR 西宮駅より徒歩15分(阪急バス7分)

※ご来場は、電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。